



葉千労働動

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話(鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043(22) 7207 番

93. 1. 28 No. 3730

労働千葉 新時代の創造へ!

1・22-23全支部活動家研修会開催

学習(理論)を 実践(運動)の糧に!

一月二二・二三日、伊豆・大川、国労教育センターにおいて、第一回全支部活動家研修会が行われた。本部執行部・支部三役を中心に六〇名が、現在の内外情勢を正確に把握し、今後の労働千葉の闘いの基調・運動・方針を煮詰めていく。そして運動の中心部が確固たる理論を培っていくため、毎年一回この全支部活動家研修会を定例開催していくことが確認されるなど、労働千葉新時代へ向けた突破口を切り拓いた意義は極めて大きいと言える。

今春闘争が勝負所 総力をあげた闘いへ!

一日目は、冒頭、田中書記長より、「とりまく情勢と当面する闘いの方針」が提起され、今春闘争にあらゆる課題が集中していること―①、反合闘争―東日本、三・四・六月ダイ改、「年度末諸施策」との闘い、四月三・六協定をめぐる闘い、貨物、三・一八ダイ改、「時短」との闘い。②、解雇撤回闘争―中労委の動向と、二・一六「清算事業団公判」、二・一九「第一波スト公判」控訴審闘争への総決起。③、九三春闘―貨物一時金獲得闘争を含めた大幅賃上げの闘い。④、強制配転者の原職奪還の闘い。⑤、反戦闘争―PK〇第二次出兵(三月)、天皇防冲(四月)阻止現地闘争、そして三・二八三里塚現地集會を中心とした闘い。等を基本に、闘いへの総決起体制構築が訴えられた。

深められた情勢把握 今何が求められているのか。

続いて講演に入り、島崎光晴氏(経済問題研究家)から、『九〇年代日本のゆくえはどうなるか』―不況と戦争の時代を見通す―を受け、一日目を終了。

二日目は、『新たな段階に入った戦後政治の総決起攻撃と国鉄闘争』をテーマに、杉田明氏(臨調国鉄攻撃と労働者階級著者)より講演を受け、(両講演については、機関誌労働千葉次号に掲載予定)最後に中野委員長がまとめ(要旨別掲)を行い、学習(理論)を 実践(運動)へと導いていく―激動の時代に通用する労働運動の創造にとつて、決定的意味を持つものとなった。



国鉄闘争と反戦闘争の 結合が新たな 労働運動を創る!

中野委員長全活まとめ要旨

初の企画である全支部活動家研修会は、(1)向こう一年間の労働千葉の運動の骨格を討論していく、(2)めまぐるしい世界の動き―経済・政治がどうなっているのか、どうなるうとしているのか、について情勢をキチンと見ることから進むべき道を摸索するものとして来年以降も行っていきたい。

内外ともに今までの構造が崩れた今は、戦国時代―弱肉強食の時代を示している。国内における政治・経済の危機的状況は、あらゆる手をつくしたうえで危殆にあり、われわれにとっては絶好のチャンスと捉えなければならぬ。焦点は「連合」をどこが握るのかということであり、清算事業団闘争を中心とした国鉄闘争と反戦闘争の結合によって、「連合」を下から突き崩すことだ。それは対JR闘争―JR総連を打倒していく闘いに収斂されている。その意味からも、あらゆる課題が集中した今春闘争は山場と言える。

追悼 穴戸良一氏



一月十二日、労働千葉のB会顧問の穴戸良一氏が、病氣療養中のところ、薬石効なくご逝去されました。穴戸氏は、地本執行委員長、B会会長をはじめ重責を歴任され、常に労働千葉の良き相談役として、組合の発展に寄与されました。ここに、慎んで氏のご冥福をお祈りいたします。